

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】 ～ 日本一の高校をめざして ～

- 大阪を代表する公立高校として、教育のあるべき姿を追求し、府民から信頼され、誇りとされる学校
- 社会に貢献する高い「志」を持ち、世界を変える駆動力を持った人間性豊かなリーダーを育成する学校
- 全てにおいて「チーム天王寺」として組織的に一丸となって取り組む学校

【生徒に育みたい力】

- 理想に向かって努力する推進力、及び失敗から学び、決してあきらめない粘り強さ
- 自ら課題を見出し、自ら学び、自ら深く考え、自ら判断することができる自主・自律性
- 科学的思考力や豊かな国際感覚の育成を通じた将来を見通す力と、社会に貢献し、世界を変えようとする意欲と駆動力
- 他者をリスペクトし、多様性を認め、協働し、共に高めあう「場」を生み出す「つながる力」

2 中期的目標

1 学力・人間力の育成

「授業第一主義、鍛錬主義、本物志向、課題研究、文武両道（体育活動（体育的行事及び部活動）と学習活動の両立）」を教育の五つの柱として、「天高育成プログラム」（3年間の教育活動を俯瞰し、各取組の有機的関連性を明確に示し、教育目標を図式化したもの）に取り組み、豊かな人間性を育む「全人教育」を実施する。

- (1) 「天高スタンダード」又は科目ごとのシラバスに記載された各教科が策定する3年間を見通した各年度の到達目標に基づいた高い学力、すなわち「知識・技能」に加え「思考力・判断力・表現力」と「主体性・多様性・協働性」を含んだ「確かな学力」の定着に取り組むとともに、学習指導要領・高大接続を見据えたカリキュラム・マネジメントを行う。
 - ア 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、授業改善に向けた取組みをさらに進め、より洗練された指導法を開発し共有する。
 - イ 「天高育成プログラム」に基づき、多彩な行事や取組みを通して、豊かな人間性と粘り強さ、協働性を育む。
 - ウ 「大阪府部活動の在り方に関する方針」を踏まえ、バランスのとれた活動を通して豊かな学校生活を実現させる。部加入率90%以上を維持する（R2：94%、R3：92%、R4：92%）とともに、学校教育自己診断において、部活動との両立ができている生徒の割合75%以上を維持する。（R2：73%、R3：82%、R4：82%）
 - エ 学習指導要領が求める観点別評価及び新たな高大接続における主体性の評価について、これまでの取組みを発展充実させ、パフォーマンス評価として、より洗練されたルーブリックの開発と共有をめざすとともに、効果的な活動記録の取組みを進める。
 - オ 4技能を備えた英語力を身につけさせるため、指導方法・カリキュラムの研究を継続するとともに、国際教育の機会を通じて、学習の動機付けを行う。
 - (2) 学習指導の充実に取り組む
 - ア 「天高育成プログラム」を基に各教科で策定したシラバスに則り、自主教材の作成などさらなる指導の充実を図る。
 - イ 研究授業、公開授業（教科の枠を超えた授業研究）を充実させ、互いに見学する回数について1人平均5回以上を維持する。（R2：12.1回、R3：11.7回、R4：5.7回）
 - ウ 授業アンケートにおいてアンケート項目の全体平均3.50以上を維持する。（R2：3.49、R3：3.52、R4：3.56）
 - エ ICT機器の効果的活用について研修を行い、様々な場面での活用を進める。
 - オ 学習指導要領が求める観点別評価の取組みを充実させるための研修会を開催する。
 - (3) 探究活動の充実、自学自習の習慣づけ
 - ア 全員が「創知」において行う課題研究について、これまでの指導・運営・評価方法の研究成果を生かし、全教科教員による指導体制のもとでさらに充実発展させる。
 - イ 「創知」におけるカリキュラム開発の成果を広く府内外の高校間で共有し、新学習指導要領の「総合的な探究の時間」や「理数探究」のモデルを大阪から全国に発信する。
 - ウ 桃陰セミナー・部学習日・休業期間や放課後の自習室の活用を一層推奨することにより、自学自習の習慣づけを行う。
 - エ 大学進学実績について、国公立大学合格者現浪合わせて270人[9クラス規模75%]以上を維持する。（R2：290人、R3：314人、R4：272人）
 - (4) 教育活動のアセスメント
 - ア 天高IR（InstICTutional Research）として、学校におけるデータを効果的に活用する体制を構築する。
- 2 グローバル社会に貢献できる人材の育成
- (1) グローバルリーダーの育成
 - ア コミュニケーションツールとしての英語を活用し、様々な国際活動により国際教育を充実させ、全ての生徒に豊かな国際感覚を身につけさせる。
 - イ アジア各国との交流を、①アジア理解とアジア研究、②アジアの若者との英語による交流、③国際研究活動の機会として継続する。
 - ウ グローバル・リーダーズ・ハイスクール（GLHS）10校対象の広域研修を企画・運営し、その成果を広く共有する。
 - エ SSH校として科学に秀でた突出人材の育成をめざすとともに、「大阪サイエンスデイ」を継続するなど、大阪の拠点校としてSSH事業の成果普及に努める。
 - (2) 生徒理解の促進と安全・安心な学校づくりを推進する。
 - ア 障がいのある生徒に対し、学校教育法（＝障がいによる学習上または生活上の困難を克服するための教育を行うと規定）を踏まえた支援を組織的に推進する。教育相談委員会活動を充実させ、担任、学年団、スクールカウンセラーが連携して発達障がいなど様々な原因でつまずきを感じる生徒を支援する。
 - イ 天王寺高校いじめ防止基本方針に則り、いじめアンケートの対応や事象生起に際しての迅速かつ組織的な対応を行う。
 - (3) 京都大学・大阪大学・大阪教育大学・大阪工業大学との連携協定に基づきGLHSの事務局校として各大学との連携を進める。
- 3 教員の資質の向上
- ア GLHS及び天王寺高校の教員であることの自覚と大阪の教育を牽引する意識の醸成を図る。新規採用教員ならびに着任後の年数が少ない教員に対して実施している「桃陰塾」を継続発展させて教科指導力、生徒指導力の育成を図る。
 - イ 教員の働き方を見つめ直すとともに、経験の少ない教員の教科指導力と生徒指導力を育成する。中堅教員に学校運営の視点を身につけさせる。
 - ウ 外部教育機関の経験豊かな教員や広報担当者を招聘し、授業展開や新たな高大接続のあり方をテーマとした研修会を開催する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>■保護者による回答</p> <p>【有効回答数 847/1068（1年314・2年297・3年236 回収率79%）】</p> <p>概ね高い関心を寄せていただいております。各質問に対しても肯定的な意見が多く寄せられました。コロナ禍で制限されていた学校行事やPTA活動等が今年度より制限なく実施できたことにより、大幅にプラスの評価となっている。ご家庭と学校との情報交換・共有についても肯定的に捉えていただいております。学校の教育方針が保護者の方によく伝わっていると認識している。なお、様々な案内について電子による連絡を求める意見があるが、紙での配布物を通して「ご家庭での会話のきっかけづくりとしていただきたい」という、本校の方針の一つをご理解いただきたいと考えています。</p>	<p>◆第1回（6/17）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校入試で可否に反映できる部分についてはアドミッションポリシーに合致した生徒を入学させてもらいたい。 ・学校経営計画やスクールポリシー、天高育成プログラムの内容は評価できる。今後とも作成すること自体が目的とならないようにしてもらいたい。 ・海外研修の費用が高騰しているが、同窓会等の支援も仰ぎながら再開または継続を望む。

府立天王寺高等学校

<p>■生徒による回答 【有効回答数 1033/1068 (1年 350・2年 346・3年 337 回収率 97%)】 コロナの5類への移行を受け、本校の特色である多彩な行事が実施できるようになったことで、他校との交流については16ポイントもプラスに転じた。ただ、中学時代がコロナ禍での生活だったせいか、行事と学習・部活動のバランスのとり方が分からない生徒や、緊密な人間関係でのつまづきを見せる生徒が一定数いる。生徒の状況を見ながら、コロナ禍以前の本校本来の学習・行事・部活動の形に戻れるよう引き続き検討を重ねる。</p> <p>■教職員による回答 【有効回答数 72/72 (回収率 100%)】 多くの点でマイナスの評価となった。コロナ以前から過半数の教員の入れ替わりがあり、様々な行事がコロナ禍前の状態に戻つつある中で、本校教育の基本方針や行事等の意義が浸透していない状況があるかもしれない。GLHS校及びSSH校であり、128年の伝統を持つ本校が社会から求められるものを教職員全体で共有し、大阪の教育を牽引できる存在であり続けることができるよう、不断の努力を続けることが必要である。</p>	<p>◆第2回 (11/25) ・定時退庁日を設定したことのみで教員の働き方改革が進んでいるとは限らない。教員の働きやすい職場となることを望む。 ・1人1台端末の使用について、生徒・教員双方にとって有意義な形にしてほしい。 ・教員間の授業見学や研修は評価できる。継続して欲しい。</p> <p>◆第3回 (1/20) ・令和6年度学校経営計画(案)について、「1めざす学校像」及び「2中期的目標」を承認。 ・卒業の最後の最後まで行事が多いことは生徒にとって良いこと。学校教育自己診断において教員による評価が昨年度と比べて低下しているが、その意義を教職員にも浸透させてほしい。 ・海外、国内研修について、PTAや多くの方が子どもたちに支援をいただければ充実につながる。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R4年度値]	自己評価
1 学力・ 人間力 の育成	(1) 「天高育成プログラム」を踏まえたカリキュラム・マネジメントを行い、「確かな学力」の定着と「全人教育」に取り組む。	(1) ア・効果的なカリキュラム・マネジメントに取り組む。 イ・授業改善の取組みを充実発展させる。 ウ・「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、アクティブラーニングなどの指導方法を含む授業改善に取り組む、質の高い深い学びのある授業実践を行う。 エ・部活動方針を踏まえ、バランスのとれた活動を通して豊かな学校生活を実現させる。学校教育自己診断において部活動との両立ができていない生徒の割合を維持する。 オ・天高育成プログラムの多彩な行事を創意工夫して実施し、仲間を思いやり、力を合せて、課題に対してやり抜く力を育てる。 カ・「ルーブリック」を活用した「パフォーマンス評価」を導入し、課題研究や観点別評価等の評価方法を確立する。また、生徒の活動の記録・振り返りができるシステムを構築する。 キ・科学オリンピック対策講座を開催する。科学オリンピックへの参加者300名以上を維持する。 ク・4技能を備えた英語力を身につけさせる。	(1) ア・生徒学校教育自己診断「進路希望達成に必要な学力をつけてくれる」75%以上 [79%] イ・授業改善に向けた研究協議・情報共有の場を年3回以上設ける。 ウ・学校全体で授業改善の取組みを進め、学校教育自己診断における授業満足度90%以上 [94%] エ・部加入率90%以上 [92%] ・学校教育自己診断において部活動との両立ができていない生徒75% [82%] オ・学校教育自己診断で、行事の意義に対する肯定評価平均90% [94%] カ・「ルーブリック評価」に関する研修を各教科で行う(1回以上)。 ・個人活動の記録を生徒自身が行う取組みを行う。 キ・科学オリンピック対策講座開催。科学オリンピック参加者300名以上、10名以上の受賞者 [R3 322名内、受賞3 R4 406名内、受賞26] ク・スピーキングテストと4技能対応授業の継続	(1) ア・「進路希望達成に必要な学力をつけてくれる」77.6% (○) イ・公開研究授業実施(11/10) 校内教員研修「授業力向上を考える会」実施(11/30) 76・77期情報交換会内で実施(3/22) (○) ウ・各教科でのアクティブラーニング導入100% 各教員のアクティブラーニング導入98% 「満足できる授業が多い」92.1% (○) エ・部加入率 90.5% ・「部活動との両立ができていない」78.6% (○) オ・学習講座 88.7%・林間学校 94.9%・水泳訓練 93.8%・社会人講演会 92.3%・京大研修会 96%・修学旅行 98.1%・課題研究 88.8%・学部学科紹介 97.8% 平均93.8% (○) カ・各教科でのルーブリック活用100% 各教員のルーブリック活用88.1% 調査毎に各教科で観点別評価の研修を実施 (○) ・全生徒に活動毎に振り返りシートの作成を指導 (○) キ・科学オリンピック参加234名、受賞者3名 物理 11・化学 135・生物 88・情報 23・地学 28・地理46・数学 63 (○) R2 386名 うち受賞4 R3 322名 うち受賞3 R4 406名 うち受賞26 R5 331名 うち受賞7 ク・1・2年生での英語による授業実践の継続 スピーキングテスト1年8回・2年2回実施 (○)
	(2) 学習指導の充実に取り組む。	(2) ア・教科運営委員会で各教科のシラバスを点検、確認する。 イ・研究授業、公開授業を充実させる。 ウ・授業アンケートの結果を高いレベルで維持する。 エ・ICT活用に係る校内研修を実施する。 オ・観点別評価に係る校内研修を実施する。	(2) ア・シラバスの達成度自己評価各教科平均90%以上 [90.3%] イ・教員相互の授業見学(一人平均年5回以上) ウ・授業アンケートの全体平均3.50 [3.56] エ・職員会議を含み、年1回以上実施 オ・職員会議を含み、年1回以上実施	(2) ア・天高スタンダード達成度各教科平均92.6% (○) イ・授業見学数 平均9.8回 (◎) ICT活用に関する研究会に参加8件 職員会議で共有 ウ・全体平均 第1回 3.54・第2回 3.57 年間平均 3.56 (◎) エ・ICT活用(百問繚乱)に係る校内研修1回実施 (○) オ・教科間での評価体制を調整し2月に各教科会議で報告会を実施 (○)
	(3) 探究活動の充実、 自学自習の習慣づけ	(3) ア・「創知」における指導・運営・評価方法と、全教科教員による指導体制を継続する。	(3) ア・「創知」を指導する教員を25名以上配置して講座編成を行う。	(3) ア・2年生355名全員による課題研究「創知II」において、教員28名による全クラス同時展開を実施 (○)

府立天王寺高等学校

		<p>イ・「創知」における取組みについて、HP を活用して広く発信し、普及を図る。</p> <p>・大阪サイエンスデイ、近畿サイエンスデイにおいて課題研究の指導・運営・評価方法の共有をめざす。</p> <p>ウ・桃陰セミナー、部学習日の活用促進を通して、自学自習の習慣づけをめざす。</p> <p>エ・大学進学実績を維持する。</p>	<p>・2年生徒 360 名が課題研究の成果物を完成する。</p> <p>イ・HP の更新に努め、成果普及を進める。</p> <p>・大阪サイエンスデイ第1部における府内高校からの審査員体制を維持する。[大学教員 34 名+高校教員 64 名]</p> <p>ウ・桃陰セミナー参加者の満足度 90%以上 [92.1%]。</p> <p>・部学習日の参加者数総計 700 名以上 [920 名]</p> <p>エ・大学入学共通テスト 5 教科受験出願率、学年の 95%以上 [96.6%]</p> <p>・国公立大学合格者現浪合わせて 270 名以上 [272 名]</p>	<p>・約 90 班が課題研究に取り組み、校内における発表会を 3/7 実施 (○)</p> <p>イ・「創知」・大阪サイエンスデイ等取組を発信 (○)</p> <p>・大阪サイエンスデイ第1部実施(10/21) 審査員は大学教員 34 名・高校教員 69 名 第2部実施(12/17) (○)</p> <p>ウ・桃陰セミナーを 22 回実施 参加者数 1 日平均 142 名 満足度 95.9 (○)</p> <p>・部学習実施 50 回 参加者 792 名 (○)</p> <p>エ・大学入学共通テスト 5 教科出願率 99.4% (352 名/354 名) (○)</p> <p>・国公立大学合格者現浪合わせて○名 (○)</p>
	(4) 教育活動のアセスメント	(4) ア・学校におけるデータ活用の体制を構築する。	(4) ア・GL・SSH 委員会内に係を設け、取組みを開始する。	(4) ア・天高 IR として委員会内で体制構築 (○)
2 グ ロ ー バ ル 社 会 に 貢 献 で き る 人 材 の 育 成	(1) グローバルリーダーの育成	(1) ア・オンラインを含む様々な国際交流を企画・実施し、国際感覚を身につける機会を充実させる。	(1) ア・交流行事の参加者満足度 90%以上 [100%]	(1) ア・ヘルシンキ国際高校生徒受入れ(11/6) ホランドパーク高校との交流(9/19) ホランドパーク生徒派遣 (3/2~17) インド・マヨ女子高校との交流(6/13) 交流行事の参加者満足度 95% (○)
		イ・台北第一女子高級中学との研究交流を継続し、発展充実させる。	イ・研究交流参加者満足度 90%以上 [100%]	イ・台北第一女子高級中学との研究会実施 (3/6) 満足度 100% (◎)
		ウ・GLHS10 校の生徒を対象とする広域研修を企画開発して、実施する。	ウ・研修参加者満足度 90%以上 [100%]	ウ・国内研修実施(12/25~27) 25 名中本校生 2 名参加 満足度 100% (◎)
	(2) 生徒理解の促進と安全・安心な学校づくりを推進する。	(2) ア・支援コーディネーターの専門性を高め教育相談機能を充実させるとともに、支援コーディネーターと養護教諭を中心にチームで対応する体制と配慮を要する生徒の指導を充実させる。	(2) ア・研修等に 2 回以上参加し、そのスキルを教員間で共有するとともに、教育相談の実践を積み上げ、継承していく。	(2) ア・支援コーディネーターが 2 回の教育相談関連研修に参加。 本校 SSW による職員研修兼 PTA 保護者教育相談講座を実施(12/5) (○)
		イ・いじめアンケート結果への対応をいじめ対策委員会を中心に組織的に行う体制を確立する。	イ・いじめ対策委員会を複数回開催し、情報共有と組織対応をめざす。	イ・いじめアンケートを 1・2 年は 3 回、3 年は 2 回実施。結果をいじめ対策委員会で共有した。また校内で発生した事象について、組織的に対応した。 (○)
		ウ・人権講演会及び人権 HR を計画的に実施 (各学年 3 回) し、人権に係る問題に対する正しい認識と態度の育成を図る。	ウ・講演会毎の生徒アンケートによる満足度 90%以上	ウ・全学年 3 回実施 生徒アンケートによる満足度 96.8% (◎)
	(3) 京都大学・大阪大学等との連携	(3) 京都大学、大阪大学等との連携協定に基づき各大学と連携を維持する。	(3) 京大キャンパスガイド、阪大ツアー等を継続する	(3) 京大キャンパスガイド実施(12/23) 生徒 1 年 19 名 2 年 23 名参加 阪大ツアー実施(11/18) 生徒 344 名参加 (○)
3 教 員 の 資 質 の 向 上	・経験の少ない教員の育成と中堅教員の教育力向上 ・働き方改革の推進 ・学校運営のあり方検討	ア・桃陰塾(着任後の年数が少ない教員の勉強会)として年間 7 回程度の自主的勉強会(先輩教員の講演、ワークショップなど)を行う。	ア・桃陰塾参加者の満足度 90%以上 [100%]	ア・桃陰塾を 12 回実施 参加者満足度 100% (◎)
		イ・学校運営のあり方を見直し、時間外勤務の縮減に努める。	イ・教員全体の時間外勤務合計を減少させる。	イ・昨年比 2%減少 (○)
		ウ・教科指導力の向上をめざして外部講師等の指導法講習会への参加を促進する。	ウ・外部講師による指導法講習等への参加のべ 5 回以上	ウ・外部講師による指導法講習のべ 7 回・49 名が参加 (○)